東大阪市立意岐部中学校　コミュニケーションカード　２０１０．８．０５

ファシリテーション：深美隆司

＊話し方、表情を工夫することは受け取る側の人への印象を大きく変えるもので、自分は普段どのように生徒に接しているのか、振り返るものとなりました。ありがとうございました。

＊生徒に対する声のかけ方によって、生徒のとらえ方が大きく変わるということが改めてわかりました。先生にはいろいろな方法で研修をしてもらえるので、いつも参考になります。

＊いつ、本題に入るの？　と思っているうちに、実ははじめから本題に入っていた、としばらくしてから気づかされ、深美先生ワールドにはまっていった自分がなにか不思議で、そして自然と楽しみながら、多くのことを学ばせていただきました。授業でもこんな風にできればいいだろうなあ・・・と思いながら、そうしていくための知識の裏付け、自分のスキルアップを目指そうと思っています。たくさんの楽しくためになるお話をしていただき、ありがとうございました。

＊毎度のことですが、研修を受けて、自分は「聴く」ことができていないなあと反省させられます。慌てて解決しようとしないで、生徒の思いを「聴く」、生徒が安心して話せる存在になりたいと思います。自分たち同士も、本当に話ができる関係が築けるようにしていきたいと思います。

＊前回に続き、「あ～、なるほど」というのを何度も思いましたし、引きつけられました。何気ない話し方でも、こんなに引きつけることは出来ないので、ぜひ実践してみます。その中で、自分なりの「型」を見つけたいと思います。

＊以前話を聞かせていただいたときもそうだったけど、やっぱり人を魅きつける力がすごいなと思いました。気がつくと深美先生をみんなじーっと見つめていて、話の仕方やネタの一つ一つがすごく凝られているんだと感じました。まずは話し方から参考にさせていただいて、授業に臨みたいと思います。そして私は、今回ロールプレイをやらせてもらいましたが、そのときも制服を着るというところに深美先生のこだわりを感じました。うまくできたかどうかはわかりませんが、深美先生と一緒に楽しくすることが出来ました。対生徒にどういう態度をとっていくのか、自分なりに考えたいと思います。ありがとうございました。

＊楽しく研修を受けることができました。それを学校として、一人ひとりの職員が生徒たちに返していく方法を考え、良い方向へ向かうようになればと思います。

＊長時間の研修にきていただきありがとうございました。話の聴き方などとても勉強になりました。「相手をセンターに置く」ということは本当に大事だなあと思います。

＊学べる方法はどんどん学んで取り入れていきたいです。

＊いろいろな活動を通して楽しく学べました。「認知」を自分にフィードバックするという話が、印象に残りました。自分は子どもたちにとって、「鏡」のような存在になれているかなと考えさせられました。今回学んだことを夏休み明けから生かしていけたらよいと思います。ありがとうございました。

＊深美先生の話し方、表情などもすごく参考になりました。前回参加できなかったのですが、いろいろな小道具がたくさんあって、すごくわかりやすかったです。話の内容も、自分を振り返りながら聞くことができて、今後の自分につなげられそうです。ありがとうございました。

＊２本のロールプレーイングが印象に残っています。『主体的』な生徒を育てなければならないのですが、学活やＳＴなどどうしても教師の方から口を出してしまっていました。

＊知識として理解できていることでも、実際のロールプレイを見せていただいたり、見え方、見る視点などが偏っていたり、自分の見え方が当たり前になっている場合がたくさんあることを再認識させていただきました。主体的な子どもたちを育てるために、主体的な教師に一人ひとりがなって、もっとすてきな学校にしていきたいなと思いました。ありがとうございました。

＊「主体的」と「依存的」に関するお話はすごく納得できました。「依存的」な子を協調性があると評価している部分は実際あるかもしれないと自分自身を振り返りました。依存的な子が集まっている集団はいろいろな意味で怖いものがあると思います。一人ひとりが主体的に行動できる場面、しかけを意識的に作りたいです。

＊主体的な関わりのできる子を育てること、またそのために、生徒との関係を築いていくためのスキルと考え方を学べました。ありがとうございました。

＊アサーティブのロールプレイイングはすごくわかりやすく、子どもたちにも伝わりやすいのではないかと思いました。ぜひ使いたいと思いました。

＊引き出しが豊富で話に吸い込まれていきました。「主役交替」というロールプレイでは、普段の自分の姿を振り返って、よくあり得ると思わされました。社会状況によって追い込まれている子どもたちにつけたいスキルを考えさせられました。ありがとうございました。

＊時間を感じさせない話だった。うまい。アイスブレーキングなどのさまざまな遊び。これは、よほどトレーニングしないとできない。何がすごいか、それは気持ちよく皆の力を引き出していたから。「相手をセンターに置く」ということ。その通りだと思いました。実践していきたい。主体的と依存的の違い。これがあまり正確に理解できなかった。「依存する気持ちも大事なのでは」と思ってしまうからだ。たとえば、「わからないことを聞くこと」は、人間関係をうまく活用しているのでＯＫだと思う。たぶん「積極的に聞く」ということで、すでにそれは「主体的」に属しているのかもしれませんが・・・。主体的、主体的と考えすぎるとまた偏ってしまうようにも思う。たとえば「人の世話にはならない」何でも自分でするという。主体性を持った依存はＯＫだということでしょうか？

＊体を動かしたり、はっとするような発想の転換があったりと、研修とは思えないような楽しいお話をしていただきありがたく思います。その中でも「依存的」と「主体的」というキーワードが特に印象的でした。「主体的」な子どもに良くないイメージがあるというような話がありましたが、自分を含め多くの大人は子どもに「主体的」であってほしいと考えているように感じました。しかし、考えとは裏腹に、「忙しいから大人の言うことを聞きなさい」や「みんながやっているのだから同じようにしなさい」など、ついつい子どもに対して「依存的」であることを要求してしまうのではないかと感じました。普段からの子どもへの接し方がどうであったか見つめ直し、矛盾がなかったのか子どもたちにどう受け取られるかを考えていきたいと感じました。